

第32回 全国育樹祭 基本計画



第32回 全国育樹祭愛媛県実行委員会
平成19年6月

目 次

全 体 計 画

1 開催趣旨	1
2 基本コンセプト	2
3 大会テーマ	2
4 大会キャラクター	3
5 ポスター原画	3
6 大会イメージソング	4
7 開催概要	5
8 開催場所	5

運 営 計 画

1 運営体制	8
2 輸送計画	8
3 式典参加計画	8
4 宿泊計画	9
5 視察	10
6 警衛警護	10
7 救護・衛生	10
8 消防・防災	10
9 参加者サービス	10
10 物産等展示・販売	11
11 記念品等	11

お手入れ行事計画

1 会場整備・設営	12
2 お手入れ行事概要	12

式 典 計 画

1 会場整備・設営	14
2 式典演出	14

育樹行事計画

1 育樹行事概要	16
----------	----

併催行事計画

- 1 全国緑の少年団活動発表大会 17
- 2 育林技術交流集会 17

記念行事計画

- 1 林業機械展示・実演会 18
- 2 森林・環境関係製品展示・販売 18
- 3 その他の記念行事 18

広報・協賛計画

- 1 広報計画 19
- 2 協賛計画 19

その他

- 1 歓迎レセプション 20

全体計画

1 開催趣旨

全国育樹祭は、幅広い国民運動としての国土緑化運動の一環として、活力ある緑の造成気運を高め、次代への連帯性を深めることを目的として開催されています。

豊かな国土の基盤である森林は、木材を生産する場であると同時に生物が生存していくために欠かせない清らかな水と空気を産み出し、多種多様な生態系を育むなど、他をもって替えることのできない多面的かつ公益的な機能を有しています。

また、近年では、地球規模での環境破壊である地球温暖化に繋がる温室効果ガスを森林が効率的に吸収・固定し、地球環境の保全・回復の役割を担うことが期待されています。

このような中、県土の7割を森林が占める愛媛県では、平成13年を「森林そ生元年」と位置付け、森林の有する公益的機能の重要性を改めて認識し感謝をするとともに、これらを私たち県民共有の財産として大切に守り育て、次の世代に健全な森林として継承していくため、「森林と共生する文化」の創造に取り組んでいるところです。

そこで、この取組みを広く全国に向けて発信するとともに、私たち一人一人が森林を守り育て、活力ある健全な森林をつくりあげていくという気運をより一層高めるため、

「育てよう 緑あふれる 日本の未来」を大会のテーマとして、平成20年秋季に「第32回全国育樹祭」を開催します。

2 基本コンセプト

テーマ「循環」

先人が植えた木々は世代を超えて生まれ、森林もりとなって現在いまへと受け継がれました。

その森林から、日々恩恵を享受している私たちの手によって、明日みらいへと引き継ぐ森林づくりを行います。

(解説)

全国育樹祭は、「親が植え、子が育てる」という育樹運動のシンボリック行事として実施されていますが、愛媛県で開催される第32回全国育樹祭では、昭和41年に昭和天皇・香淳皇后両陛下の行幸を賜り開催した、第17回全国植樹祭で造成された森林を最大限に活用し、両陛下の御皇孫にあたる皇族殿下に行啓を賜り、世代を超えた森づくりを行うほか、「循環」というテーマを具現化するため、成育した木材を育樹祭開催行事に有効利用することとしています。

3 大会テーマ

育てよう 緑あふれる 日本の未来

明神小学校 5年(久万高原町) 佐藤 晴紀 さん

【講評】

どれも平易な言葉を使用していますが、日本の未来は活力ある緑あふれる環境の中で、森林と共生する文化の創造によって支えられ、発展していくという思いが力強く伝わってくる作品となっています。

4 大会キャラクター



作者：松山市 池田 正誉 さん
(趣旨)

えひめの森を吹き抜けるさわやかな風、その風に髪をなびかせ森を育む愛媛の子供達”を表現するため、E H I M Eの「E」の文字をモチーフに、明るく元気に森を守り育てる愛媛の子供をイメージしてデザイン化しました。

愛称 『E～もりくん』

松山南高等学校 1年(松山市) 高月 悠馬 さん

【講評】

E H I M Eの「E」の文字をモチーフとしたデザインの趣旨を生かし、Eと木を守り育てていくイメージを感じさせる愛称となっています。

5 ポスター原画



画題「緑の中で」

新谷小学校 5年(大洲市) 二宮 楓太 さん

【講評】

鮮やかな色彩で動物たちと一緒に豊かさを喜び楽しんでいる様子がのびのびと描かれており、大きな木の下には楽しげに横たわっている自分たちを描き、画面に変化を与え、見る者を楽しくほっとさせてくれている効果もあります。

また、木の大きさを表現するのに枝に明暗の調子をつけて立体感を表現し、枝を前後に構成して遠近感も見事に表現しています。

結果として、小学生では表現出来にくい大きな空間を感じさせる作品となっています。

6 大会イメージソング

県政発足百年を記念して昭和48年に制定された「愛媛の歌」は、ふるさとを愛する心を育む歌詞となっており、育樹祭開催の趣旨とも合致しているものであることから、大会のイメージソングとして採用することとし、老朽化した音源を広く県民の参加を得てリメイクするとともに、大会開催までの各種記念行事やイベント等で使用することにより開催気運の醸成を図ることとする。

また、育樹祭本番の式典においても県民の手により演奏することとする。

愛媛の歌

作詞 岩本義孝
作曲 中田喜直

明るく力強くそして美しく ♩ = 108 位

1 うみがある やまがある そらにひかりがあふれてる
2 はながある うたがある あいのこころがさいている

みちがある かわがある いよのことばがながれてる
ゆめがある あすがある あかるいきぼうがそだってる

ふるさとふるさと わがえひめ ゆたかなしぜんが
ふるさとふるさと わがえひめ かがやくぶんかが

あふれてる あついちしおが ながれてる
さいている わかいちからが そだってる

愛媛の歌

- 一 海がある 山がある
空にひかりがあふれてる
道がある 川がある
伊予のことばが流れてる
ふるさと ふるさと わが愛媛
ゆたかな自然が あふれてる
あついい血潮が 流れてる
- 二 花がある 歌がある
愛の心が咲いている
夢がある あすがある
明るい希望が育つてる
ふるさと ふるさと わが愛媛
かがやく文化が 咲いている
若い力が 育つてる

7 開催概要

- (1) 式典時期 平成 20 年秋期 (10 月中旬～11 月上旬)
(2) 主 催 社団法人 国土緑化推進機構、愛媛県
(3) 参集規模 約 3,000 人
(4) 事業内容

式典等行事

皇族殿下によるお手入れ行事

参加者による育樹活動

緑化功労者等の表彰

緑の少年団活動発表

大会宣言 等

各種行事

併催行事

社団法人 国土緑化推進機構と愛媛県が共催するもの

- ・ 全国緑の少年団活動発表大会
- ・ 育林技術交流集会

記念行事

実行委員会が主催し、又は共催するもの

- ・ 林業機械展示・実演会
- ・ 森林・環境関係製品展示・販売
- ・ その他の記念行事

関連行事

実行委員会が必要と認めたもの。

8 開催場所

- (1) お手入れ会場 松山市 久谷ふれあい林
(昭和 41 年 第 17 回全国植樹祭会場)
- (2) 式典会場 松山市「愛媛県武道館」
- (3) 荒天会場 同上
- (4) 育樹会場 松山市 久谷ふれあい林
- (5) サテライト会場 東予会場 (未定)
南予会場 (未定)

久谷ふれあい林・愛媛県武道館



サテライト会場

東予会場 (未定)

南予会場 (")



運営計画

1 運営体制

(1) 実行委員会の設立

関係する機関及び団体が一体となって、全国育樹祭の開催に向けた諸準備に万全を期すため、平成 19 年度に「第 32 回全国育樹祭愛媛県実行委員会」を設立する。

(2) 実施本部の設置

全国育樹祭の式典等を円滑に実施・運営するために、平成 20 年度に「第 32 回全国育樹祭愛媛県実施本部」を設置する。

(3) 緊急対応

不測の非常事態等に対応するための緊急対応を計画する。

2 輸送計画

(1) 輸送日程

併催行事(緑の少年団活動発表大会、育林技術交流集会)及び記念行事(林業機械展示・実演会、森林・環境関係製品展示・販売)を実施する全国育樹祭の前日と当日の 2 日間とする。

(2) 輸送計画

全国育樹祭の参加者の輸送については、混雑が予想されるため、県の借り上げ車両(バス等)及び指定車両による計画輸送を実施する。

(3) 駐車場計画

全国育樹祭の参加者の円滑な輸送を行うため、松山中央公園内に駐車場を確保する。

3 式典参加計画

(1) 参加者の選考方針

育樹祭の開催を「県民参加の森林づくり」を推進する契機とするため、林業関係者のみならず、一般公募による参加者の募集を行うなど、各界各層から幅広い参加を求めることとする。

(2) 参加者の区分・内訳・人数

	区 分	内 訳
参加者総数 約 3,000 人	中央・県外参加者 約 700 人	(社)国土緑化推進機構と 愛媛県知事の協議による者 約 200 人
		各都道府県知事推薦による者 約 500 人
	県内参加者 約 1,500 人	実行委員会の選考による者 約 1,000 人 (内公募による者 約 300 人)
		市町推薦による者 約 500 人
	協力員・出演団体等 約 800 人	協力員(運営スタッフ) 約 300 人
		式典音楽隊 約 100 人
		出演団体(緑の少年団等) 約 400 人

4 宿泊計画

(1) 宿泊対象者

宿泊対象者は、中央・県外参加者約 700 人とする。

中央参加者 約 200 人 県外参加者 約 500 人

(2) 宿泊期間

宿泊期間は、原則として併催行事(緑の少年団活動発表大会、育林技術交流集会)前日から全国育樹祭当日までの3日間とする。

(3) 宿泊地

原則として、松山市内

5 視察

中央・県外参加者に対し、本県の産業、歴史・文化、観光等を広く紹介し、併せて本県の物産等を全国にPRするため、本県を代表する視察コースを設定し、案内に供する。

(1) 視察コース

日帰り及び1泊2日のコースを設定する。

(2) 受け入れ態勢

宿泊、交通、昼食等、視察に必要な業務については、指定する民間業者を通じて手配する。

6 警衛警護

県警本部、関係機関との緊密な連携により、皇太子同妃殿下及び関係要人の御身辺の絶対安全を確保するほか、歓送迎者の雑踏等による事故防止を図るため、各種の警備措置を実施し、その万全を期す。

7 救護・衛生

医療機関等との連携のもと、式典会場、育樹会場における傷病者の救護及び防災に関する態勢を整備するとともに、飲食等による危害の発生防止を図るため、食品衛生・環境衛生の対策を講じる。

8 消防・防災

会場周辺に消防車両等を配置し、万一の火災、自然災害等の緊急事態に備える。

9 参加者サービス

式典会場に、総合案内所、湯茶接待所、臨時郵便局、公衆電話等を設置し、参加者へのサービスに努める。

10 物産等展示・販売

式典会場隣接地において、県内全市町が参加する「えひめ産業文化まつり」や(社)愛媛県物産協会による物産展を併催し、県内の特産品等の展示・販売を実施する。

11 記念品等

- (1) 全国育樹祭への参加を記念し、愛媛県らしい、また、緑の祭典にふさわしい記念品を贈呈する。
- (2) 帽子、雨具、その他会場で使用する物品を配布するほか、パンフレット等を併せて配布する。

お手入れ行事計画

昭和41年に温泉郡久谷村(現松山市久谷町)で開催された「第17回全国植樹祭」は、当時の時代を反映して、「精英樹による拡大造林」を開催テーマに参加者13,000人によりスギ・ヒノキの2年生苗木30,000本を植樹しており、将来立派な森になるようにとの昭和天皇陛下の御発案から、昭和天皇・香淳皇后両陛下のお手により3本づつ「森」の字の形に植えられた「お手植え木」6本とともに、陛下の御心のとおり、現在、40年生を超える豊かな森林へと成長している。

近年、当時拡大造林により造成された人工林が山村の過疎化・高齢化や長引く林業の低迷等により、間伐等の保育が放棄された結果、森林が本来有している、水源かん養や土砂流出防止等の機能が低下し、台風等の出水時に土砂や立木が溪流や河川に流出し、災害の要因になるとともに、さらなる森林の荒廃を招くという悪循環に陥っていることなどから、現在、官民挙げて間伐の促進を図るとともに、長期育成循環施業など多様な森林整備に取り組んでいるところである。

そこで、久谷ふれあい林においても100年先を見据えた森林づくりを行うため、昭和天皇・香淳皇后両陛下の「お手植え木」や周辺木からさし穂を採取し育成した苗木を樹下植栽し、複層林として育成していくこととする。

1 会場整備・設営

会場となる「久谷ふれあい林」は、育樹祭開催までに進入路(林道)を整備するとともに、「複層林の造成技術指針」に沿った適切な施業を実施し模範的な造林地へと整備する。

開催年度においては必要な仮設物の設置等を行うこととするが、可能な限り植栽木の伐採は避け、現状の林況を生かしたレイアウトとなるよう留意する。

2 お手入れ行事概要

(1) 皇族殿下お手入れ会場御着

大会会長(参議院議長)、(社)国土緑化推進機構理事長、県知事等によるお出迎え

〔お手入れ行事参加者
中央・県外参加者200人、県内参加者200人 計400人〕

(2) パネル展示御覧

県知事から、第17回全国植樹祭の様子及び昭和天皇皇后両陛下お手植え木の育成状況を御説明

(3) 御製の碑御覧

県知事から、昭和天皇ゆかりの御製碑について御説明

(4) お手入れ

皇族殿下により、昭和天皇・香淳皇后両陛下お手植え木(スギ)及びお手植木から採穂・育成し、事前に植樹しておいた苗木周辺の土壌改良

* 緑の少年団団員、林業後継者による介添え

(5) 皇族殿下お手入れ会場御発

式典計画

1 会場整備・設営

(1) 会場整備

式典会場は既存施設である「愛媛県武道館」を使用するため、基本的に新たな整備は行わないこととするが、皇族殿下の御席の設置(新設)については宮内庁と協議のうえ決定することとする。

(2) 会場設営

開催年度において必要な仮設物の設営等を行う。

なお、装飾物等の制作等については、可能な限り県民の参加をいただき、県民手づくりによる育樹祭の開催を目指すこととする。

2 式典演出

育樹祭の開催趣旨及び開催方針に基づき、大会テーマにふさわしく、かつ、本県の特色を生かした意義深い緑の式典となるような式典演出とする。

(1) 式典演出基本構成

式典行事の基本的な構成として、式典開催の前に、県内外からの多数の参加者への歓迎の意をこめた「式典前アトラクション(プロローグ)」を実施し、その中で前日の「お手入れ行事」の映像や本県紹介ビデオ等を上映するとともに、開催地の郷土に根ざしたアトラクションを上演する。

また、式典の中で、「メインテーマアトラクション」を県民参加の創作アトラクションとして実施するとともに、サテライト会場からの中継映像を大型ビジョンにより放映する。

さらに、式典終了後、「式典後アトラクション(エピローグ)」を実施し、参加者の一体感を醸成する。

(2) 式典演出テーマ

式典演出のテーマは、基本コンセプトである「循環」とし、アトラクションの中で、森林の季節の移ろいと自然の営みのなかの様々な出来事から、命の尊さと先人に対する感謝を表現するとともに、森林と共生することの大切さをメッセージとして発信する。

(3) 式典概要

参加者入場

式典前アトラクション(プロローグ)

- ・ 本県紹介VTR、「お手入れ行事」映像上映、アトラクション等
皇族殿下会場御着

式典

- ・ 緑の少年団入場行進
- ・ 開会の言葉
- ・ 三旗入場
- ・ 三旗掲揚
- ・ 主催者あいさつ
- ・ 歓迎の言葉
- ・ 皇族殿下のお言葉
- ・ 表彰
 - 「全国緑の少年団活動発表大会」入賞団体
 - 「全国育樹活動コンクール」入賞者
 - 「ふれあいの森林づくり」優秀市町村等
 - 「愛媛県緑化等功労者」

- ・ 緑の贈呈
- ・ 緑の少年団活動発表
- ・ 誓いの言葉

メインテーマアトラクション

「県民参加による創作アトラクション」

- ・ 大会宣言
- ・ 次期開催県あいさつ
- ・ 閉会の言葉

皇族殿下会場御発

式典後アトラクション(エピローグ)

終了

育樹行事計画

育樹祭参加者による育樹の実践を通じて、「活力ある緑の造成気運を高め、次代への連帯性を深める」という育樹祭開催の趣旨に対する理解を深めることとする。

1 育樹行事概要

区 分	内 訳	育樹作業内容
中央・県外参加者 約 700 人	(社)国土緑化推進機構 と愛媛県知事の協議に よる者 約 200 人	皇族殿下のお手入れ後、 久谷ふれあい林内の樹下 植栽木周辺の土壌改良
	各都道府県知事推薦に よる者 約 500 人	式典当日の午前中、久谷 ふれあい林内の樹下植栽 木周辺の土壌改良
県内参加者 約 1,500 人	実行委員会の選考に よる者 約 1,000 人 (内公募による者 約 300 人)	お手入れ行事参加者 皇族殿下のお手入れ後、 久谷ふれあい林内の樹下 植栽木周辺の土壌改良 (約 200 人)
	市町推薦による者 約 500 人	その他の参加者 育樹祭開催前のプレイベ ント等の地域育樹行事 会場での下刈り・枝打ち・ 間伐等

* 久谷ふれあい林内の樹下植栽木は、平成 18 年 4 月に愛媛県立上浮穴高等学校森林環境科の新生 15 名が、同林内の植栽木からさし穂を採取し、2 年間育成した苗木を、平成 20 年度春季に開催される「愛媛県植樹祭」において植樹予定である。

併催行事計画

1 全国緑の少年団活動発表大会

全国育樹祭行事の一環として、全国から選ばれた緑の少年団や県内の緑の少年団が一堂に会して、日頃の活動状況の発表や交歓集会での交流を通じて相互の研鑽を図る「全国緑の少年団活動発表大会」を開催する。

(1) 主 催

社団法人 国土緑化推進機構、愛媛県、全国緑の少年団連盟

(2) 開催日

発表大会	育樹祭の前日
交歓集会	育樹祭の前日(発表大会終了後)から当日

(3) 開催場所

発表大会	生涯学習センター(松山市)
交歓集会	中央青年の家(松山市)

(4) 参加者

発表大会	県内外の緑の少年団とその指導者等	約 500 人
交歓集会	県内外の緑の少年団とその指導者等	約 250 人

2 育林技術交流集会

全国育樹祭行事の一環として、県内外の育林技術者、林業経営者、林業後継者等の林業関係者のみならず、育樹祭の開催を「県民参加の森林づくり」を推進する契機とするため、森林ボランティア団体や教育関係者等、各界各層から幅広い参加を求め、特別講演の聴講や意見交換を行う「育林技術交流集会」を開催する。

(1) 主 催

社団法人 国土緑化推進機構、愛媛県

(2) 開催日

育樹祭の前日

(3) 開催場所

久万高原町産業文化会館(久万高原町)

(4) 参加者

県内外の育林技術者等 約 500 名

記念行事計画

1 林業機械展示・実演会

林業施業の機械化による効率化と安全性の向上を図るため、林業関係者はもとより、一般県民にもその必要性を理解していただくことが大切であることから、全国の林業機械メーカー等が最新鋭の機材を展示し、併せて実演も行う「林業機械展示・実演会」を開催する。

(1) 主 催

社団法人 林業機械化協会、愛媛県

(2) 開催日

育樹祭の当日及び翌日

(3) 開催場所

(未定)

(4) 参加者

約 5,000 人

2 森林・環境関係製品展示・販売

森林や木材等の新たな利活用法や、環境にやさしいエコ製品等環境関係製品を展示・販売する「森林と緑と環境の広場」を開催する。

(1) 主 催

愛媛県

(2) 開催日

育樹祭の当日

(3) 開催場所

育樹祭式典会場隣接地(松山市中央公園)

(4) 参加者

約 3,000 人

3 その他の記念行事

育樹祭の開催を契機として「県民参加の森林づくり」をさらに推進し、森林を私たち県民共有の財産として大切に守り育て、次の世代に健全な森林として継承していくため、広く県民が参加できる記念行事を県内各地において開催する。

広報・協賛計画

1 広報計画

育樹祭の広報やPRを通じて「県民参加の森林づくり」への関心や理解を深めるとともに、育樹祭開催へ向けた気運の醸成を図る。

(1) 広報

育樹祭にかかる各種情報を、開催準備の節目節目においてマスコミや県及び市町の広報誌、インターネット等を活用して公開し、開催まで継続的な情報発信を行うことにより、開催へ向けた気運を醸成する。

また、育樹祭関連行事にかかる交通規制等が必要な場合は、事前の広報等を実施し、交通規制による交通渋滞の緩和を図る。

県民が直接「森林づくり」に参加する記念行事等の開催を広く周知するとともに、開催状況等を県政広報番組等で紹介することにより、「県民参加の森林づくり」への理解を深める。

広報活動にあたっては、県、市町、関係機関・団体はもとより、マスコミ各社や協賛企業等にもご協力をいただき、育樹祭開催の趣旨等を県民各界各層に広く浸透させる。

育樹祭関連行事に伴う交通規制等が必要な場合は、事前及び当日に各種の広報媒体により「交通規制情報」等の広報を実施し、交通規制による交通渋滞の緩和を図る。

(2) 記録

育樹祭のあらましを記録、保存するために、記録誌及び記録ビデオ(DVD)を制作し、関係先へ配布する。

2 協賛計画

県民との協働による「県民手づくり」の、また、来県される方々を「温かいお接待の心」でお迎えする、愛媛らしい育樹祭の開催を目指すため、企業、団体、個人を対象に、資金や物品・役務の提供、広報・PRへの協力、人的支援・ボランティア等の「協賛参加者」を広く募集する。

その他

1 歓迎レセプション

皇族殿下の御臨席を仰ぎ、大会関係者を招待した歓迎パーティーを開催する。

(1) 主 催

愛媛県

(2) 開 催 日

育樹祭の前日

(3) 開催場所

未定

(4) 参 加 者

皇族殿下、宮内庁、中央・県内外参加者 約 200 人